cobas®

この添付文書をよく読んでから使用してください。
また、必要時に読めるように保管しておいてください。

体外診断用医薬品　　2019 年 12 月作成(第 1 版)

製造販売届出番号:13E1X80206000184

コバス® システム

血液検査用トランスフェリンキット

コバス®試薬 TRSF Gen.2

【全般的な注意】

1. 本品は体外診断用であり、それ以外の目的には使用しないでください。
2. 測定結果に基づく臨床診断は、臨床症状やほかの検査結果などと併せて、担当医師が総合的に判断してください。
3. 添付文書に記載された使用目的及び用法・用量に従って使用してください。記載された使用目的及び用法・用量以外での使用については、測定結果の信頼性を保証しかねます。
4. 構成試薬には保存剤として微量のアジ化ナトリウムが含まれています。誤って目や口に入ったり、皮膚に付着した場合には水でじゅうぶんに洗い流すなどの応急処置を行い、必要があれば医師の手当てなどを受けてください。
5. 使用する機器の添付文書及び取扱説明書をよく読み、記載に従って使用してください。

【形状・構造等(キットの構成)】

コバス試薬 TRSF Gen.2

R1:緩衝液

R2:抗体液

抗ヒトトランスフェリンウサギポリクローナル抗体

(R1:ポジション B、R2:ポジション C)

【使用目的】

血清又は血漿中のトランスフェリンの測定

【測定原理】

本キットは血清又は血漿中のトランスフェリンを定量的に測定するもので、免疫比濁法を原理としています。抗ヒトトランスフェリンウサギポリクローナル抗体に検体を反応させると検体中のトランスフェリンと抗ヒトトランスフェリンウサギポリクローナル抗体が抗原抗体反応を起こし、凝集します。この凝集の変化量は検体中のトランスフェリン濃度に依存するので、標準液について同様に反応させて作成した検量線から検体中のトランスフェリン濃度を求めます[1)]。

【操作上の注意】

1. **測定試料の性質・採取法**

測定試料:血清又は血漿(ヘパリン Li)

測定試料の安定性[2)]: 15～25℃で8日間、
2～8℃で8日間、
−15～−25℃で6ヵ月間安定

血清は、できるだけ早く血餅から分離してください。

EDTA、クエン酸は使用しないでください。

試料の採取後直ちに測定しない場合は、密栓して保存してください。

採血管の種類によっては、測定結果に影響を及ぼす成分を含む場合があります。採血管をそのまま機器にセットして測定する場合は、採血管の製造元の指示に従ってください。

沈殿物のある検体は、使用前に遠心操作を行ってください。

2. **妨害物質・妨害薬剤**

(1) ヘモグロビン濃度 1,000 mg/dL[3)]、抱合型ビリルビン及び非抱合型ビリルビン濃度 60 mg/dL[3)]、乳ビ(イントラリピッド)L インデックス 500[3)]、リウマチ因子は 1,200 IU/mL まで測定に与える影響は±10%以内です(トランスフェリン濃度 200 mg/dL の試料での検討時)。

(2) トランスフェリン濃度 1,700 mg/dL までは、プロゾーン現象による偽低値は認められません。

(3) 一般的な薬剤は測定に与える影響はありません[4),5)]。

(4) 非常に稀なケースとして免疫グロブリン異常症、特に IgM 型(ワルデンシュトームマクログロブリン血症)の場合、信頼性に欠ける結果となる場合があります[6)]。

3. **その他**

本試薬はコバス 6000 などに適用できます。

【用法・用量(操作方法)】

1. **試薬の調製方法**

全ての構成試薬はそのままご使用ください。

標準液:C.f.a.s.プロテイン(別売)をそのまま用います。

2. **試薬の安定性**

未開封時:2～8℃で使用期限まで安定

3. **別途必要な器具・器材・試薬**

・コバス 6000 など
・C.f.a.s.プロテイン
・プレチコントロール CC1
・プレチコントロール CC2
・コバスシステム NACL

使用方法は、各製品の添付文書及び取扱説明書をご参照ください。

4. **操作方法**

詳細な操作方法は別途パラメーターを用意してありますので、弊社までお問い合わせください。

(コバス 6000 の例)

(1) 検体は機器上で生理食塩液にて 21 倍に希釈し試料とします。

(2) 精製水(試薬ブランク用)、標準液又は試料 12.5 μL を量り取ります。緩衝液 140 μL を加え、37℃で約 1.5 分間インキュベーションします。

(3) 抗体液 30 μL を加え 37℃でインキュベーションします。

(4) 5分以内に吸光度変化量を主波長 505 nm、副波長 700nm で測定します。

(5) 試薬ブランク、標準液の吸光度変化量から検量線を作成し、試料の吸光度変化量からトランスフェリン濃度を求めます。

5. **精度管理**

精度管理には、プレチコントロール CC1、プレチコントロール CC2(別売)をご使用ください。

【測定結果の判定法】

1. **測定結果の判定及び参考基準範囲**

参考基準範囲

海外 文献値:200～360 mg/dL[7)]

国内文献値[8)]

群別	個数	中央値	基準範囲
全体群	255	240	190～320
男性群	161	230	190～300
女性群	94	250	200～340

基準範囲は、測定試料、測定条件、基準個体などにより異なる場合がありますので、各施設で臨床医と相談の上、設定してください。

2. **結果の判定にかかる注意**

測定範囲上限を超える高値を示した検体又は、あらかじめ高値が予測される検体については、生理食塩液などを用いて検体を適宜希釈して測定してください。

【性能】

1. **性能**

【用法・用量(操作方法)】の記載に従い、感度・正確性・同時再現性の各試験を行った場合、下記の規格値に適合します。

(1) **感度及び正確性試験**
既知濃度の管理用試料を測定するとき、既知濃度の±15%以内です。

(2) **同時再現性試験**
同一管理用試料を3回同時に測定するとき、測定値のCV値はそれぞれ 10%以下です。

(3) 測定範囲
コバス 6000: 10～520 mg/dL
上限は C.f.a.s.プロテインのロットごとの表示値により変わることがあります。

2. 較正用の基準物質
IFCC 血漿蛋白国際標準品(IRMM CRM470)

【使用上又は取扱い上の注意】

1. 取扱い上(危険防止)の注意

(1) 検体及び本品の取扱いには、使い捨て手袋、実験着などの保護衣及び保護用眼鏡を着用するなど、人体に直接触れないように注意してください。また、測定終了後はよく手を洗ってください。

(2) 試薬が誤って目や口に入った場合には、直ちに水でじゅうぶんに洗い流すなどの応急処置を行い、必要があれば医師の手当てなどを受けてください。

(3) 試薬が誤って皮膚及び粘膜に付着した場合には、直ちに大量の水で洗い流してください。

(4) 試薬をこぼした場合には水で希釈してから拭き取ってください。

(5) 検体をこぼした場合は、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%)などの消毒液を使用してじゅうぶんに拭き取ってください。なお、拭き取る際には、ゴム製の手袋などにより手を保護してください。

(6) 検体及び本品を取り扱う場所では飲食又は喫煙をしないでください。

(7) 検体は HIV、HBV、HCV などのウイルスによる感染の危険性があるものとして取り扱い、検体又は検査に使用した器具類は高圧蒸気滅菌器を用いて 121℃で 20 分間以上加熱滅菌処理をするか、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%)に 1 時間以上浸すなどにより消毒してください。これらの作業中は、じゅうぶんに換気を行ってください。

2. 使用上の注意

(1) 試薬及び消耗品は専用のものを使用し、その容器・付属品などはほかの目的に転用しないでください。

(2) 試薬は必ず貯蔵方法に従って保存し、凍結させるなど指定の条件以外で保存したものや使用期限を過ぎたものは使用しないでください。

(3) ロットの異なる試薬又は残った試薬を混ぜ合わせて使用しないでください。

(4) 試薬カセット内の試薬ボトルの組合せを変えないでください。

(5) バーコードをぬらしたり、強く押さないでください。

(6) すべての試薬は保存又は反応中に強い光を当てないでください。

(7) すべての試薬は開封又は分注時に微生物の汚染を避けてください。

(8) 測定系の調製には必ず精製水を使用し、水道水は用いないでください。

(9) 検体は使用前に 15～25℃に戻し、よく混和してください。ただし、激しく振り混ぜたり、泡立てたりしないでください。

(10) 本品を保存する際は、垂直の状態で保存してください。

(11) 本品の試薬カセットは再使用できません。

3. 廃棄上の注意

(1) 測定により生じた廃液については、検体などと同様に滅菌又は消毒の処理を行ってください。また、これらを廃棄する場合には、各都道府県によって定められた規定に従ってください。

(2) 使用後の容器を廃棄する場合には、廃棄物に関する規定に従って医療廃棄物又は産業廃棄物など区別して処理してください。

(3) 廃棄する際は、水質汚濁防止法等の規制に留意して処理してください。

(4) 検体及び試薬をこぼした場合は、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%)などの消毒液を使用してじゅうぶんに拭き取ってください。なお、拭き取る際には、ゴム製の手袋などにより手を保護してください。

(5) 構成試薬には保存剤として微量のアジ化ナトリウムが含まれています。アジ化ナトリウムは鉛管、銅管と反応して爆発性のある金属アジドを生成することがあるため、廃棄の際には多量の水で洗い流してください。

4. その他の注意
本品による測定値は既存製品と高い相関性を示しますが、系統的な誤差を生じる場合がありますので、必要に応じて相関性について検討されることをお勧めします。

【貯蔵方法・有効期間】

1. 貯蔵方法
2～8℃で保存してください。

2. 有効期間
24 ヵ月
使用期限(Exp.)は外箱に記載してあります。

【包装単位】

コバス システム コバス試薬 TRSF Gen.2 100 テスト
R1:緩衝液 14.0 mL
R2:抗体液 3.0 mL

【主要文献】

1) Kreutzer, H.J.H. An immunological turbidimetric method for serum transferrin determination. J Clin Chem Chin Biochem. 1976, 14(8), p.401～406.
2) Guder, W.G. et al. List of Analytes; Pre-analytical Variables. Brochure in: Samples: From the Patient to the Laboratory. Darmstadt(GIT-Verlag). 2001, 2, p.105.
3) Glick MR, Ryder KW, Jackson SA. Graphical Comparisons of Interferences in Clinical Chemistry Instrumentation. Clin Chem 1986;32:470-475.
4) Breuer J. Report on the Symposium "Drug effects in Clinical Chemistry Methods". Eur J Clin Chem Clin Biochem 1996;34:385-386.
5) Sonntag O, Scholer A. Drug interference in clinical chemistry: recommendation of drugs and their concentrations to be used in drug interference studies. Ann Clin Biochem 2001;38:376-385.
6) Bakker AJ, Mücke M. Gammopathy interference in clinical chemistryassays: mechanisms, detection and prevention. Clin Chem Lab Med 2007;45(9):1240-1243.
7) Dati F, Schumann G, Thomas L, et al. Consensus of a group of professional societies and diagnostic companies on guidelines for interim reference ranges for 14 proteins in serum based on the standardization against the IFCC/BCR/CAP reference material (CRM 470). Eur J Clin Chem Clin Biochem 1996;34:517-520.
8) 河合忠ほか. 血清蛋白 13 項目の日本成人基準範囲. 臨床病理, 臨時増刊特集. 1996, 101, p.207～209.

【問い合わせ先】

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
カスタマーソリューションセンター
〒108-0075 東京都港区港南 1-2-70
フリーダイヤル: 0120-600-152

【製造販売業者の氏名又は名称及び住所】

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
〒108-0075 東京都港区港南 1-2-70
フリーダイヤル: 0120-600-152

COBAS is a trademark of Roche.
コバスは Roche の商標です。

03635163001-I